
混ぜられたセカイ

だるま

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

混ぜられたセカイ

【Nコード】

N5854Y

【作者名】

だるま

【あらすじ】

1600年。

今から400年前、世界中で多くの人間が突然行方不明となった。

原因も犯人も手段も全てが不明の怪奇現象。

人はこれを『神隠し』や『全世界転生』や『地球外生命体による侵略』等と様々な説を打ち立てているが、決定的な学説は未だ一つもない。

その中で最も人気のある都市伝説的説が『異世界への転生』である。

護身術に長けた剣の達人が異世界を東奔西走する話です。
主人公は落ちこぼれでもチートでもありません。程々に強いです。

プロローグ

一人でいることには慣れていた。

物心ついた時に両親を事故で失い、その数ヶ月後にたった一人の家族となった妹も行方不明となった。

不慮の事故と原因不明の事件により家族を無くした自分だが、今となってはその孤独さえ心地好い物となってきた。

強がりと言われればそれまでだが、生憎一人でいる時間が長すぎたのだ。

友達もいることにはいたが、形だけの物である。

『あいつは友達がいない』『家族もいなくて可哀相な奴だ』ただそう思われたくないが為に友達を作り、上辺だけ取り繕い、『自分は孤独だけれど可哀相な奴ではない』と世間に向かい声高に叫んでいたのだ。

既に中学に入る時にはそういった周りとは違う考えを持っていた事を覚えている。

周りにその事で優越感を得ていた事も覚えている。

そんな俺にも一つだけ打ち込む物があつた。青春と情熱を打ち込んだ物が。

それが刀だ。

我が一族は戦国時代から代々続く刀の名門だそうだ。初代様が生み出した流派が今でも受け継がれている。父も祖父も曾祖父もその流派を極めて来た。

父が死んだ後に自分の身を守る護身術として祖父に剣術を教わった。

そのせいか、中学で入った剣道部では多くの人にその才能を魅入られた。

中には羨望や嫉妬の感情もあつたが。

その剣道部で俺は一人の男に出会う。

後の親友となる男だ。

始まりは唐突だった。

「おいてめえ！」

中学三年間通いつめている武道館剣道場でいつもの練習メニューを終え、防具を片付けているといきなり背後から怒号が聞こえた。

訝しい顔で振り返ると学ラン姿の男が木刀を大上段へ振りかぶり今まさに俺の脳天目掛けて振り下ろそうとしていた。

いかなる事態でも冷静かつ慎重に行動をする事を心掛けている俺だが流石に慌ててその場を飛びのいた。

「お前が柳刃 仁やなぎはこしだな？」

「確かにそうだが襲うなら本人かどうか確認してからじゃないのか！？」

もしこいつが俺と間違えて誰かに襲い掛かってたと考えると背筋が寒くなる。

「うつせ！死ね！」

内容によつては話を聞かないでもないが、如何せん、聞く耳を持っていない。

しかも殺されなきゃいけない様な事が身に覚えがない。

剣道部の備品である木刀を構え特攻してくる学ラン野郎を睨め嘆息し、手元の竹刀を構え迎え撃つ。

来る者は拒む。ひたすら拒む。それが俺だ。

後に聞いた話によるとこいつが俺を襲ったのは完全な逆恨み、しかも恋愛事に関することだ。

動機から行動までたちの悪い奴である。

神島かみしまと名乗ったそいつは中学生にしては強いという程度だった。全中一位の俺には足元にも及ばない事は言うまでもないだろう。

そんな強烈な親友との出会いは俺の圧倒的勝利に終わった。内容については割愛させて貰う。むさ苦しい男（神島）が爽やかな青年（俺）になぶられる光景は痛快極まりないが、流石に忍びない。

何はともあれ、その男、神島 竜哉との出会いが俺の人生に大きな影響を与えたことは確かである。

それまで氷の様に冷たく、刀の様に鋭く尖っていた心は神島という灼熱の釜に放り込まれ瞬く間に溶けていった。

今となつては昔の自分はかなり恥ずかしい人間だったと思わざるを得ない。

両親の事故から神島との出会いまでの期間を反省と後悔の念を込めて俺は『暗黒時代』と呼んでいる。

神島は俺の暗黒時代にずかずかと土足で入って来ては俺の生き方をことごとく否定し、擦れ曲がっていた俺の人格は元に戻っていた。友達というものに関する考え方も変わり、今まで無駄にした時間の分を取り戻す為にもよく笑う様になった。

高校は神島と同じ高校へ通うことになり、今となつては神島は俺の親友となっている。

そんな高校二年のある日、俺の人生の分岐点その二に差し掛かったのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5854y/>

混ぜられたセカイ

2011年11月18日05時27分発行